

前立腺肥大症における主な α 1遮断薬および5 α 還元酵素阻害薬の使用状況

平成25年2月
平成調剤薬局八代店

2年前の八代店のオープン以来、前立腺肥大症の患者さんの増加がみられ、特にアボルブは顕著な使用量の増加がみられています。そこで、主な薬剤の使用状況の変化について調べてみました。

α 1遮断薬

ハルナールD (0.1), ハルナールD (0.2), ユリーフ (2), ユリーフ (4)
フリバス (25), フリバス (50), フリバス (75)

5 α 還元酵素阻害薬

アボルブ

図1 合計処方人数の変動

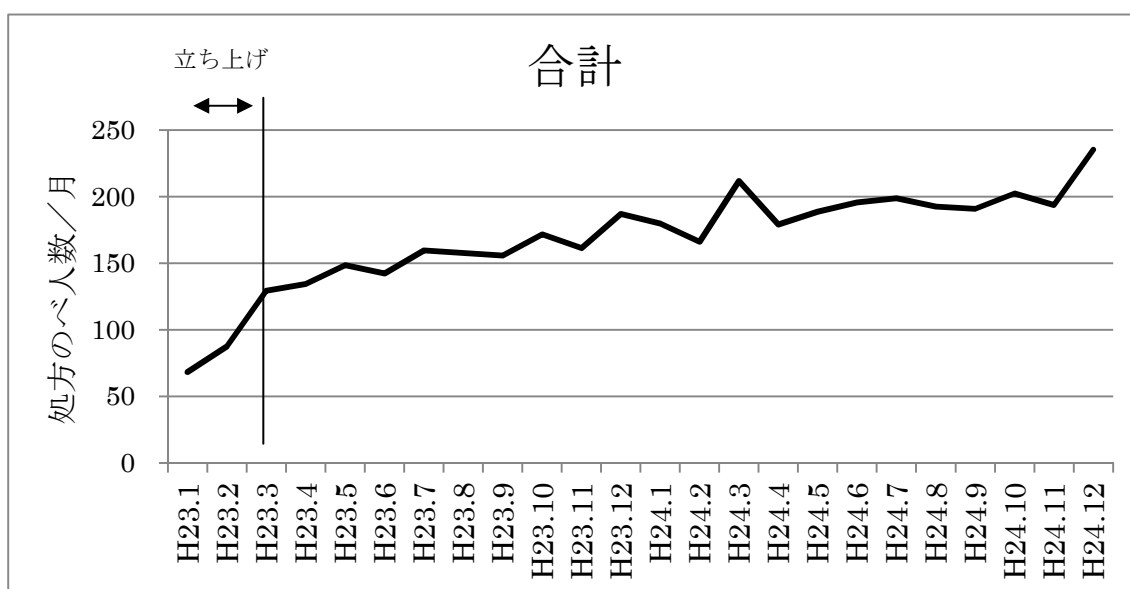


図1に α 1遮断薬および5 α 還元酵素阻害薬の処方人数の月別変動を示す。平成23年1月から2月の増加は立ち上げ期における処方人数の増加に伴うものである。平成23年3月以後はなだらかな患者数の増加を反映したものと思われる。

図2に個々の薬剤別の月別変動を示す。 α 1遮断薬の変動に比較してアボルブの処方人数増加が著しい。その増加は、平成23年12月まで急激で、平成24年になってからは、徐々に増加している。

図2 薬剤ごとの月別処方人数の変動

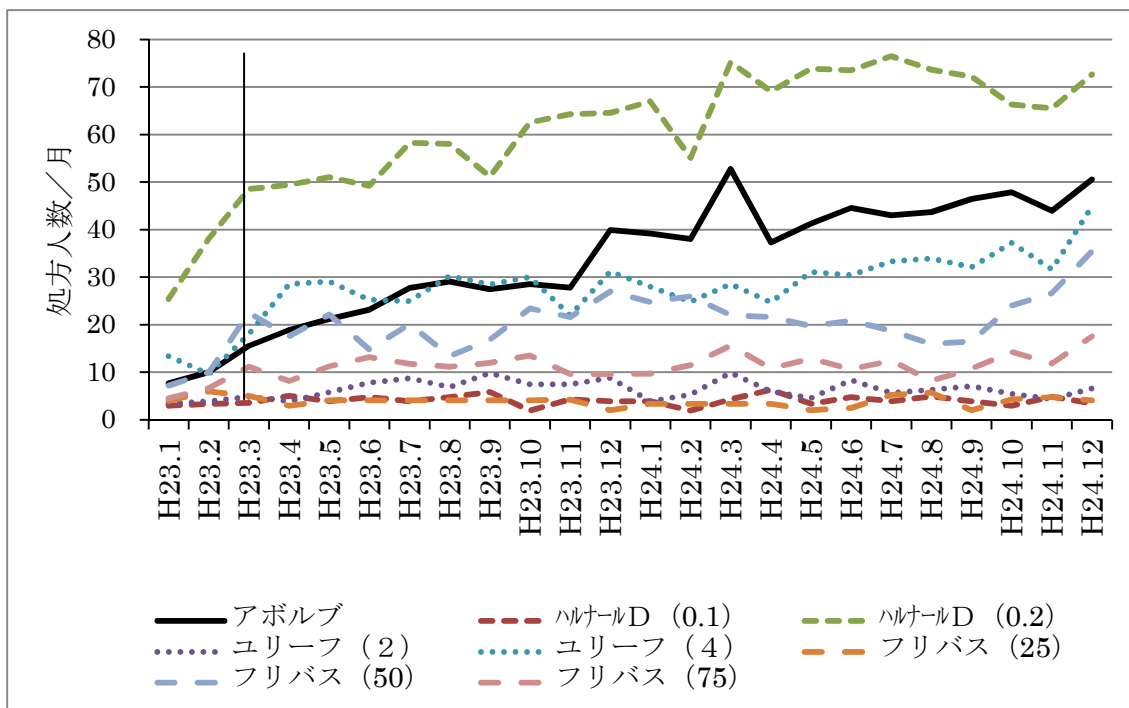


図3に、開店（立ち上げ）時の変動が落ち着いた平成23年3月、中間点としての平成23年11月、および、最近点としての平成24年11月について、 $\alpha 1$ 遮断薬およびアボルブの単独投与並びに $\alpha 1$ 遮断薬とアボルブの併用投与人数を示す。

アボルブとの併用は、ハルナールD（0.2）では、平成23年3月に比較して平成23年11月には著しく増加している。ユリーフ（4）では、経年的に増加し、併用率が高い。一方、フリバスについては全般的に併用が少ない。また、使用頻度の高い中用量（フリバス50）では併用率が低く、高用量（フリバス75）では併用率が若干高くなる。

考察

- ・ 図4に、前立腺肥大症治療薬処方の流れを示す。
- ・ $\alpha 1$ ブロッカーの単独服用でコントロールできる患者が多い。
- ・ アボルブ単独使用例は、他院で α ブロッカーが処方されている場合と血圧が低い場合 $\alpha 1$ ブロッカーが使用できない場合があると考えられる。
- ・ ユリーフの高用量が必要な患者ではアボルブの併用が必要な患者数が増加する。
- ・ ハルナールおよびユリーフでアボルブとの併用率が高く、フリバスで低い理由として、ハルナールおよびユリーフは前立腺肥大を伴う排尿障害、フリバスは膀胱頸部の刺激等による頻尿に対しても適用となることに起因すると思われる。
- ・ アボルブの併用で効果が発現すれば、患者のQOLは確実に良好となっている。

図3 平成23年3月,平成23年11月,平成24年11月のα1遮断薬およびアボルブの単
独投与並びにα1遮断薬とアボルブの併用投与

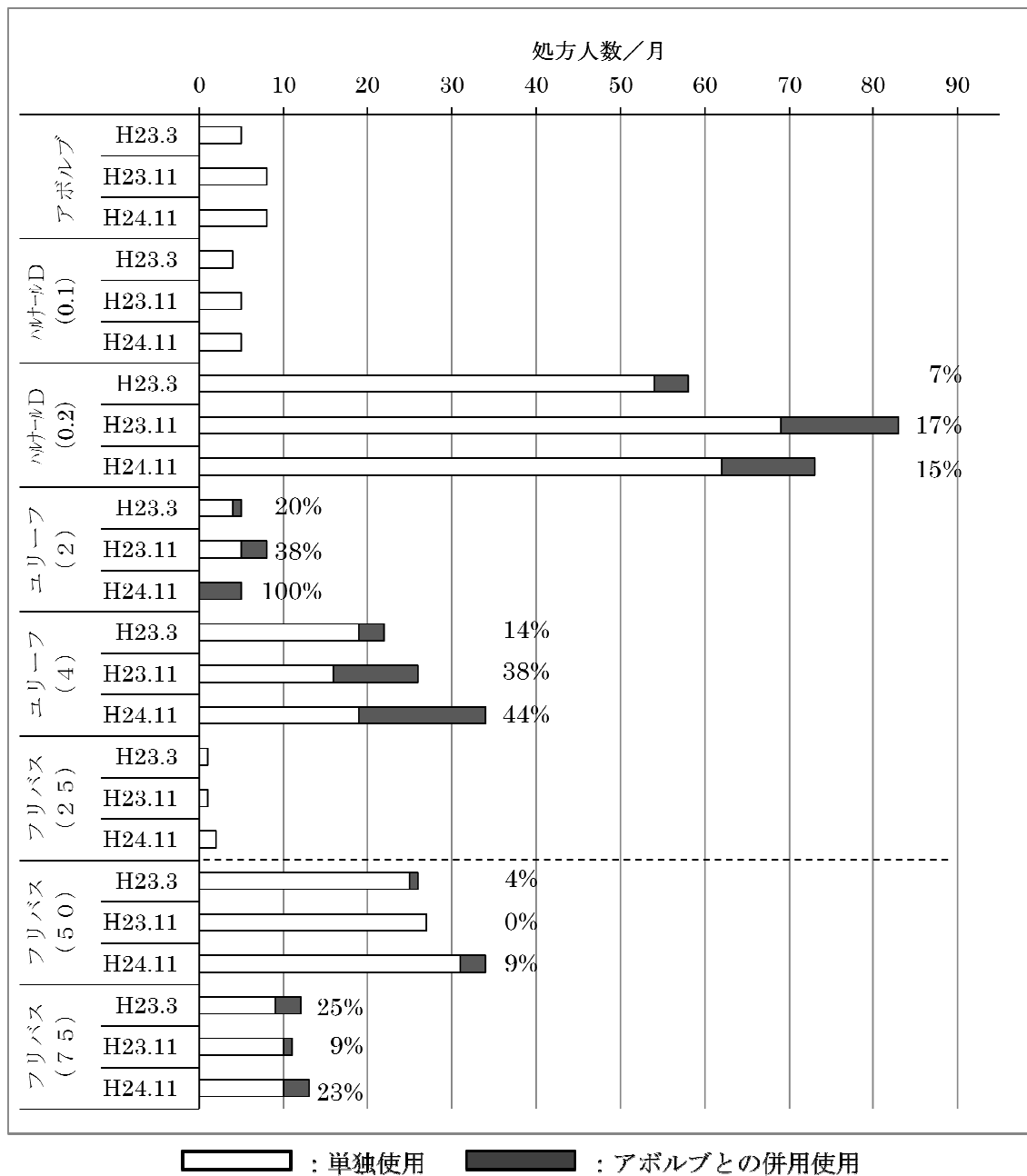
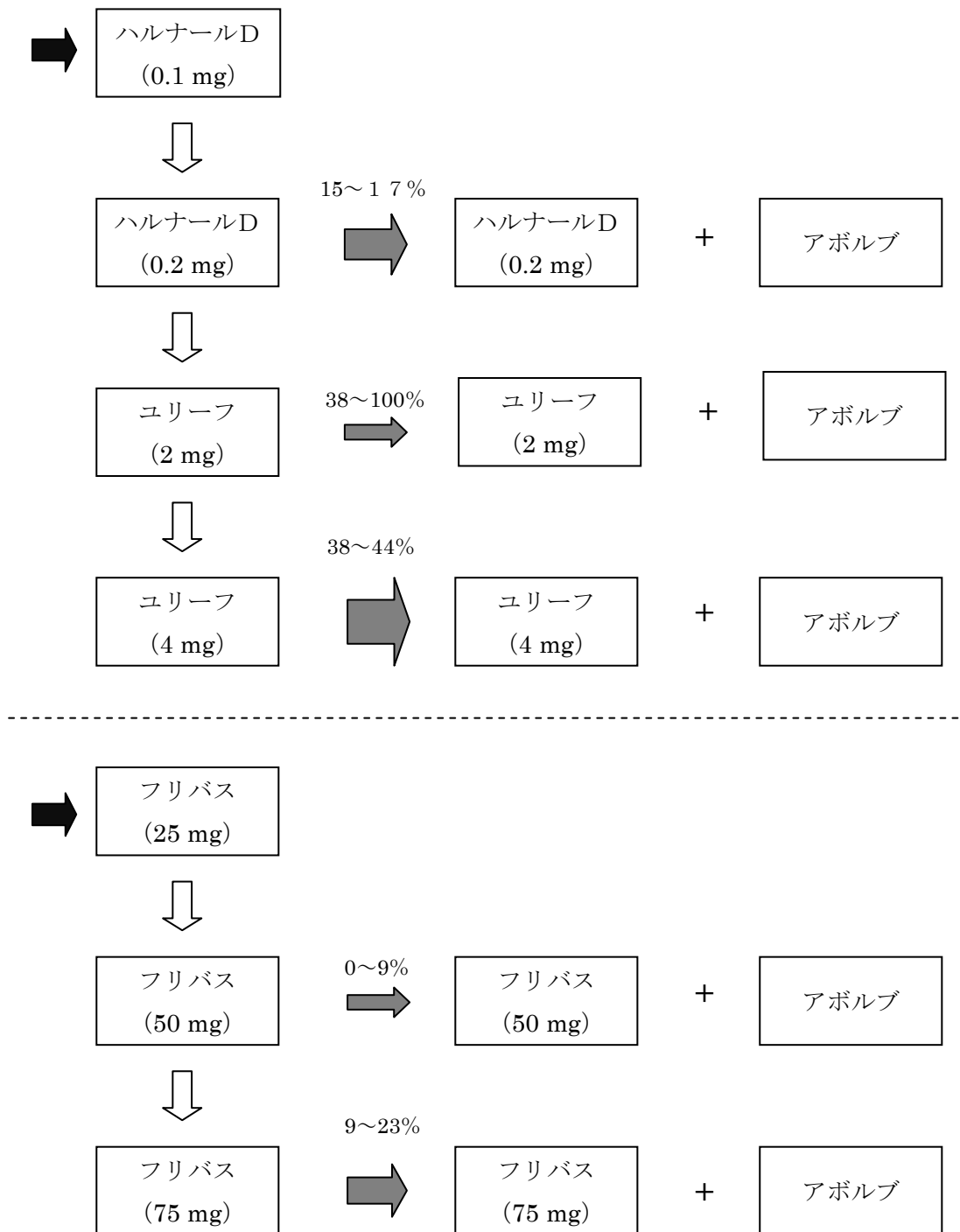


図4 前立腺肥大症治療薬処方の流れ



参 考

<前立腺肥大症の治療薬： α 1 遮断薬>

商品名	一般名	α 1 受容体サブタイプ選択性
ハルナール	塩酸タムスロシン	α 1 A > α 1 D > α 1 B
ユリーフ	シロドシン	α 1 A > α 1 D > α 1 B
フリバス	ナフトピジル	α 1 D > α 1 A > α 1 B

α 1 A：前立腺平滑筋

α 1 B：血管平滑筋

α 1 D：脊髄，膀胱

・ α 1 遮断薬の副作用

起立性低血圧，易疲労性，射精障害，鼻詰まり，頭痛，眠気

術中虹彩緊張低下症候群（白内障手術中に「水流による虹彩のうねり」，「虹彩の脱出」，「進行性の縮瞳」という虹彩の異変）：眼科医に伝える。

<アボルブの適用>

腫大 30 ml 以上

5 α 還元酵素を 1 型，2 型とも阻害，ジヒドロテストステロンの産生抑制

効果発現はゆっくり（6 ヶ月）

PSA 値を半年で半分に減少させる。前立腺癌の診断の妨げとなる。服用中止で PSA は再度増加する。

経皮吸収されるため，女性，小児には直接薬剤に触れさせない。

副作用：性機能障害と女性化乳房

<PSA（Prostate-specific antigen）>

前立腺の上皮細胞で作られる糖タンパク質

前立腺癌が存在すると血中に流れ出る PSA 量が急激に増加する。

PSA 測定について：前立腺癌の鑑別診断に必須

前立腺肥大症に於いて PSA 値は前立腺体積と正の相関がある

→大まかな体積の推定可能

PSA 値を増加させる要因：尿閉，前立腺炎，前立腺マッサージ，尿道カテーテル操作

PSA 値を低下させる要因：5 α 還元酵素阻害薬，抗アンドロゲン薬

→測定値の 2 倍とみなす。